こでザイルを出したのだが，雪はほどよくついていて，南雁戸の下りで出した方が良かったようである。

今日の予定は，雁戸山から降りた1393mピーク付近までで，そこで雪洞を掘る予定。しかし雪があまりにも少なく，快適なねぐらが確保できそうにもない。結局，今夜遅くなってもいいから，下山してしまおうと相談がまとまる。

1393mピークを越え，1940mピークでシールをはずし，下降にかかる。八丁平のパラボラのある所までは，灌木の間をぬっての下降である。気温が下がってきたこともあって，ウインドクラフトしていて，滑りづらい。斜面の途中から暗くなりだし，ヘッドランプをつけて滑降を続ける。暗闇の中でパラボラを確認したのは，18:30を少しまわった時間であった。回りはすでに闇の中である。笹谷峠からは旧道をゆっくり国道まで滑り，スキーをぬいで15分ほどで関沢バス停に着く。ほぼ12時間の行動であった。

雁戸山からは予備調査で何度も入っていたので，何とか降りられた。1940mピークからの下りは尾根が広くなるので，悪天候の時は充分注意したい。

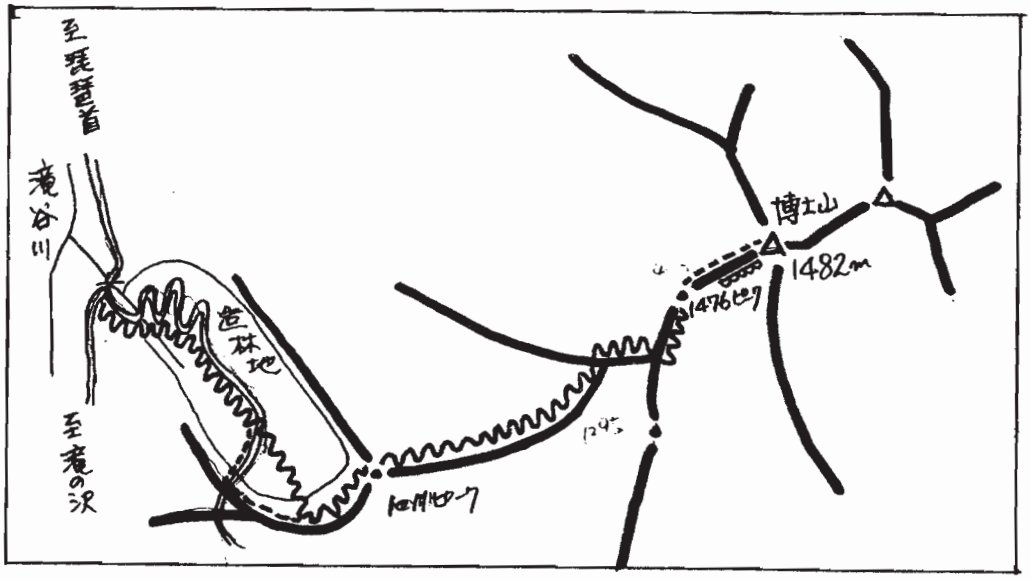
（記・和泉　功）

博士山スキー登山

1989年1月27～28日

L和泉　功・若林健二・大西真一・宍戸宰務・
鈴木健一郎・奥田　博

1月28日天気雪。前夜，柳津から西山温泉を経て琵琶首の先まで車を進め，道路上で仮眠をとる。標高899m地点ぐらいだろうか。雪は昨日から降り続いている。寝るのが遅くなったせいか，今朝は全員寝起きが悪い。朝食をすませたあと，登れる場所を探して車で偵察に出る。滝の沢の部落までは除雪がされていた。境の沢の１本滝の沢よりの小沢ぞいに，除雪されていない林道が入っている。とりつきとしては，これを利用しようということになる。そんなことをしているうちに，出発は９時を過ぎてしまった。



公社造林地の林道にそって歩き始める。斜面は伐採され，1011mピークのある尾根までは，林道を利用して登ることができた。そこからは林道から離れ，尾根にそって登ってゆく。途中小休止をとって，1011mピークに立ったのが10時50分。ここからは林間の登りとなる。博士山の山頂は，まだまだ先である。

相変らず風が強く，雪は降り続いている。ただ歩き，高度を稼ぐだけである。主尾根に出る前，高度計が1370mを指した地点でツェルトを出して，昼食とする。風は強く，温度計は氷点下10度を下回っている。行こうか戻ろうか思案するが，もう少し頑張ってみようということになる。

12時55分，主尾根に出る。尾根はいくらか広くなった。下降のときの目印のため，標識を幾つかつけてゆく。ここから1476mピークまで，距離にして500mくらいである。1476mピークから博士山までは，往復で所要時間約１時間，いったん急斜面を下降したのち，再び登ることとなる。出発が遅れたこともあって，1476mピークで，またもや行動を中止して下山にかかるか，博士山までアタックをかけるか，気持は揺れ動く。結局，奥田さんのひとことで，下山が遅くなることを覚悟で，アタックを続行することとなった。

13時35分，博士山に到着。雪のため，周りの景色は何も見えない。頂上の標識の頭を確認し，記念撮影をして，すぐ下山にかかる。シールをつけたまま1476mピークまで戻り，シールをはずす。いよいよ恐怖の下りである。

ブッシュの間をぬって滑るが，何度か転倒する。雪が深いこともあって，転倒してスキーがはずれてしまうと，時間がかかり，たちまち置いてゆかれる。1370

mピークから先は尾根が広くなり，林間の下りとなるが，登ってきた時のトレースはすでに消えてしまっており，地図を頼りに下降ルートを探しながら下る。

悪戦苦闘の末，何とか1011mピークまで戻って，小休止とする。ここまでくれば，まずはひと安心である。まもなく造林地。日没近くになり，辺りはいくらか薄暗くなってきた。気温も下がってきたようである。ザックの中の水は，凍ってしまっていて，飲むことができない。

腹に行動食をつめ込み，再び下降を続ける。造林地の急斜面を一気に下降するが，雪が深くてスキーが思うように動いてくれない。四苦八苦しながら林道まで下り，道路を目指す。下降に３時間以上を費やし，行動を終了したのは，16時55分であった。辺りはすでに暗くなっていた。　　（記・和泉　功）

［タイム］　道路(9:25)→尾根(10:20，10:30)→1011mピーク(10:50)→1370m地点(12:20，12:50)→主尾根(12:55)→博士山(13:35，13:40)→道路(16:55)

禿岳スキー登山

1989年3月4～5日

Ｌ和泉　功・宍戸宰務・鈴木健一郎

３月５日　風弱く曇。

前夜のうちに東北自動車道古川ＩＣ，鳴子経由で鬼首スキー場まで入り，仮眠する。一度は訪れてみたいと思っていた禿岳だが，機会がなく，今までなかなか実現しなかった。パラパウントでたびたび鬼首に来ている宍戸君の発案で，ようやく訪れることができた。

駐車場で簡単な朝食をすませ，いよいよ出発である。スキー場にはゴンドラもあるが，私達は，小柴山に直接上がれるリフトを利用する。リフト３本を乗り継ぎ，５分も歩くと小柴山のピークである。稜線に立つと，禿岳が正面に見えるはずなのだが，残念ながら今日は禿岳のピークはガスの中である。それでも天気は高曇で，風もなく，穏やかな登山日和である。